



道  
守

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.27 秋号



巻頭インタビュー

東九州道、縦軸が繋がる  
観光・命の道として 西嶋泰義（佐伯市長）

みちづくし in 大分2014

繋がる道、開業する駅、アートめぐり…  
変貌する大分から目が離せない!!

道守・新たな地平<sup>ステージ</sup>をめざして

道守活動と風景街道・道の駅との  
連携について 吉武哲信



## 道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りらは、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。  
さあ、新しい道に一歩踏み出そう。



波穏やかな別府湾と高崎山、別府市街・国東半島海辺の道

## CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー  
東九州道、縦軸が繋がる  
観光・命の道として 西嶋泰義（佐伯市長）
- 02 みちづくし in 大分2014  
繋がる道、開業する駅、アートめぐり…  
変貌する大分から目が離せない!!
- 04 道守・新たな地平をめざして  
道守・新たな地平をめざして
- 05 各県道守会議からのメッセージ  
10年を迎えた私たち道守は何ができるのか
- 08 道守活動と風景街道・道の駅との  
連携について 吉武哲信
- 10 わたしの好きな道  
道に四季の移ろいを  
～福岡県・大牟田花街道～ 三原くみこ
- 11 私たちの道守活動
- 14 九州風景街道マイスター
- 16 海外道事情  
路肩を賢く使って渋滞解消!(イギリス) 水野宏治
- 17 道守人物伝・道守たちのトピックス・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

# 西嶋泰義

(佐伯市長)

## 東九州道、縦軸が繋がる 観光・命の道として

来春の東九州自動車道・佐伯―延岡間の開通で、これから注目されるスポットになると思います  
が、佐伯市が考える食や観光についてお話を聞かせてください。

方は、自分のところだけければ…という考えがあったが、今は連携・共有が大事。  
道が繋がるので魅力ある町に  
さえすれば、佐伯でご飯食べて、  
延岡や別府、由布院、日田など  
他市町村に移動し泊まることも  
もできる。連携が出来れば、懸

念される通りすがりの町にならずに済む。ここは四国ともフェリーが繋がっているの、とにかく魅力を発信することが大事だと思っています。  
佐伯市は、平成の合併で九州の市町村の中で最大の面積をもち、美しい山々と海・川に育まれた九州きっての豊かな漁場です。北は小樽のお寿司、南は佐伯のお寿司と全国にも知れ渡るようになりました。

西嶋市長 高速を使って佐伯に来てくだされば、大分県の全体が潤うんです。昔の観光のあり

全国レベルの中で食が評価されるようになったのは、新鮮なものを鮮度の高いまま送ることができるようになった東九州道の開通も大きな理由だと思います。



救助支援が入ってこられる「命の道」として重きを置いています。

そういった意味では、佐伯は道路とともに生きていると実感しますね。

市長 食を通じて流入人口が増えることも大事ですが、もうひとつ、佐伯市は南海トラフ地震の影響を大きく受けるという想定が出ています。東九州自動車道の完成は、集落が孤立せず、

市長がそうやってリーダーシップをとって活動されている中で、道守でも女性の活躍が活発なんですけど、その源って何だと思えますか？

市長 旦那は魚を捕ってくるのがうまい。女性がお金に替える手段・方法を考える。そういった営みの中で、女性の考える力が根底にあり原動力となっているのでは。男性はそれを止めず、



どんどんやってもらう…というのが秘訣です。  
伊勢えび海道、おばちゃんバッキング、雪ん子寿しなど、佐伯には豊富な海の幸・山の幸、すばらしい景観、充実した運動公園施設の完備、そして元気なマンパワーが全開です。ぜひ、そんな資源豊富な佐伯市へお越しください。  
(インタビュー・桑野和泉〈道守大分会議代表世話人〉)

## プロフィール

昭和21年9月6日生。大分県立佐伯豊南高等学校商業科卒業。有限会社佐伯青果商事代表取締役、佐伯市議会議員を経て、平成17年佐伯市長就任。



# みちづくし in 大分2014

11月21日、大分市で開かれる「みちづくしin大分2014」。  
全国1位の源泉数・湧出量の別府・由布院の温泉をはじめ、  
県内各地の観光・歴史・食の魅力を堪能してください。

## ■日本一のおんせん県おおいた

言わずと知れた温泉の源泉数・湧出量は全国1位。さらに、世界中の温泉地に行ったのと同じと言われるくらい数多くの泉質がある。

炭酸泉や泥湯、冷泉など個性豊かな温泉も揃っています。沿線ごとにめぐって、おんせん県へ通になってください！

## ■別府の温泉とその魅力

湯けむりや、町の猥雑さ、立命館アジア太平洋大学（APU）誘致による移民文化の受け入れなどの独特の文化や景観を持つ別府。

観光客の減少で活気を失いつつあった自分たちの地域を元気にすることを目的として、ありのままの別府の魅力を伝える「まちあるき」を全国でもい

ち早く確立してきました。

温泉資源だけに頼らず、地域の魅力を伝える活動、地域の資源を活かしたコミュニティなどを興し、今も継承されています。

そんな背景から、新婚旅行のメッカだったこの地は、団塊の世代となったかつての層が癒されに戻ってきたり、多国籍の方々がこの多文化を受け入れたり楽しまれています。

## ■東九州伊勢えび海道

日本風景街道九州ルートの一つ、日豊海岸シーニック・バイウェイ（蒲江・北浦大漁海道）活動の一環である「伊勢えび祭り」。大分県佐伯市と宮崎県延岡市の海道の店舗で、伊勢えび漁の解禁となる9月から3ヶ月間、『伊勢えび祭り』を開催し、市内の参加店で新鮮びちちな伊勢えび料理が堪能でき



道守会員の皆様が一堂に会する交流会議「みちづくしin大分2014」の開催を心よりお喜び申し上げます。

行政と住民が手を携え協働で「みち」を守るという「道守」は、本市が取り組む「市民協働のまちづくり」そのものであり、道守会員の皆様の積極的な活動に心から敬意と感謝申し上げます。

「ご参加の皆様が交流を深められますとともに、「ホルトホール大分」や「大分いこいの道」のオープンなど、まちづくりが進む中心市街地のほか、風光明媚な別大国道、さらには海の幸・山の幸などを堪能していただき、実り多き2日間となることを期待いたします。

（大分市長 釘宮 馨）



大分駅  
2015年春には商業施設「JRおおいたシティ」もオープンします



やまなみハイウェイ(九酔溪)  
九州有数の紅葉の名所としても知られている

ます。高速道路の開通で両市は東九州の観光や食の拠点として今、大注目のルートです。

## ■開通50周年、 やまなみハイウェイ

別府市から由布市・九重町を通過して阿蘇に向かう「やまなみハイウェイ」は昭和39年に開通し、今年で50年。ワ

繋がる道、開業する駅、アートめぐり…

変貌する大分から目が離せない!!



別府湯煙



九重町・寒の地獄温泉(冷泉)



別府・泥湯



伊勢えび海道  
大分県佐伯市と宮崎県延岡市の海道の、伊勢えび漁の解禁となる9月から新鮮な伊勢えび料理が堪能できるお祭りです

インディングロード（曲がりくねった道）は、四季を先取り、折々の景色が目を楽ませしてくれる。

道を外れた十三曲がりと呼ばれる「九酔溪」のカーブから見上げる断崖絶壁も、これから紅葉の絶好ポイントです。

## ■2015年春、 新大分駅オープン

大分市中心部の再開発事業の中核施設となる新大分駅ビルは、専門店街やホテルなどを備えた21階建てのビルで、2015年春にオープンする。

1〜4階に雑貨店「東急ハンズ」や飲食、映画館など約190店が入居。8〜18階はホテル、19〜21階は温泉施設、その他の階は駐車場などとなる。

駅ビル周辺でも、開業を見据えた整備が進んでおり、駅南側では大半が緑地帯のシンボルロード「大分いこいの道」（幅100メートル、長さ444メートル）の全面的な利用が7月から始まっている。

## ■アートな街へ、 大分県立美術館開館

新大分駅ビルから歩いて行ける場所に大分県立美術館（OPAM）が、同じく2015年4月24日に開業する。大分市の繁華街にも隣接しているため、



2015年4月21日に開館する新県立美術館

来春以降、多くの人々で賑わうエリアとなることが予想されている。大分市中心市街地は、「100年に1度」の歴史的な転機を迎えている。

## ■「ごみゼロおおいた作戦」 日本一きれいなまちづくり

大分県では、身近なごみ問題から地球温暖化問題といった地球規模に至るまでの環境課題の解決に向けて、平成15年度から「ごみゼロおおいた作戦」を展開しています。

大分市でも、市民・事業者・行政の協働による「日本一きれいなまちづくり」運動を進めています。各市町村でも環境に取り組む運動は、輪を広げています。

大分に来たら、「綺麗だった」と言われるように皆さまをお迎えしたいと思っています。





# 道守・新たな地平をめざして

ステージ

「みちづくし in 大分2014」が11月21日、22日に大分市で開かれます。今大会は、平成17年以来大分にとっては2巡目、第11回目の大会開催となります。

『道守九州会議』として発足して10年

が経過し、「10年を迎えた私たち道守は何ができるのか」を志向する大会にしたいという想いで、『道守・新たな地平（ステージ）をめざして』をテーマとしました。

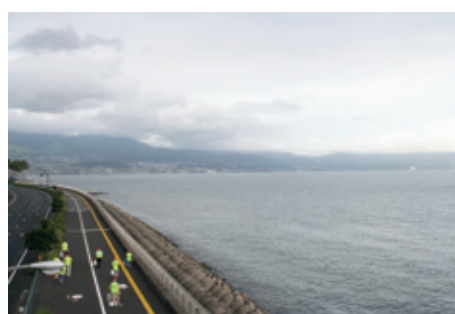
交流会は、第1部・2部の構成で、第1部ではメインテーマを元に対談を行います。第2部では、大分県内から応募され、審査委員会で評価の高かった上位3団体による活動発表を行います。

懇親会では、皆さまに大分の郷土料理やお酒でおもてなしを考えています。

2日めの現地体験学習会は、NHK大河ドラマも佳境に入り九州でもゆかりの地が盛り上がっています。黒田官兵衛が初代城主となった中津城、関ヶ原合戦の2日前に行われた石垣原合戦（別府市）を名物ガイドがご案内します。

## 交流会・第1部 対談

交流会第1部については、このメインテーマを元に道守発足・発展の立役者である、宮田年耕氏（首都高速道路株式会社・代表取締役専務執行役員）、



岡本博氏（阪神高速道路株式会社・取締役常務執行役員）、女性の目から見た人づくり・まちづくりに取り組んできた堀幸子氏（中九州横断道路）早期完成を願う女性の会長）に登壇いただきます。立ち上げ当初の原点回帰から、今後の縦・横軸含めたネットワークを九州創生にどう活かすか、道守とも繋がりのある「風景街道」や「道の駅」活動との連携による元気づくりへの一層の貢献などを語っていただきます。今後の道守をけん引してくださる塚原健一氏（道守九州会議 副代表世話人）にお三方をコーディネートしていただきます。

## 交流会・第2部 活動発表

第2部では、素晴らしい活動を行っている新しい仲間3団体、また各県代表の6団体に登壇していただきます。また、応募団体のパネル展は、会場であるホルトホール大分のロビーで開催し、通過する市民に道守と、活動団体を知っていただくツールとして開催します。

## 各県道守会議からのメッセージ

### 10年を迎えた私たち道守は

### 何ができるのか

九州にあつて道守活動が本格化してはや10年。この間、皆さんの活動は、自らが道、路に関心をもち、行政と協働しての地域のための活動であり、貢献であった。道の環境美化に加え、それにとどまらない地域の安全確保や互いの交流、地域おこし、見守りなど、地域の活力に大きく寄与したことはいうまでもない。

とはいえ、この高邁な活動も、10年を経て大きな困難に直面している。急展開する人口

減・超高齢社会、産業経済活動の劇的変化や不透明で不毛な政治的混乱。そして経験したこともない異常気象による大災害の頻発。これらを踏まえると、漸く漕ぎ出した道守活動も小舟のように振り回され、それを乗り越えることが私達の新たな地平となった。

### 青年期に向けた新たな出発

具体的には、道守活動の強化と次世代への継承、地域再生に向けた道守活動の

展開、気候変動に処する道守活動のチャレンジである。道守活動の強化・継承は、激変する社会の中で、これまでの活動を一層創意工夫し活性化させることである。同じ環境美化でも他の地域や活動とのつながりを通じた様々な市民との連携による道守活動が望まれる。同じゴミ拾いでもスポー

ツ型、学習型、イベント型への展開がみられ、そうした創意が常に求められる。また、これらのことが、道守活動を子供会や町内会、老人会、商工団体、企業などとの連携を促し、結果的に道守の仲間を増やし継承に繋がるといえる。

また、道、路は、社会、経済などの諸活動を循環させ、前述した現在の困難を克服し地域を創生する大切な基盤である。このことから、道、路を有効かつ安全に活用することが常に求められる。身の回りの道のあい路を解消し、道守を広報し、故郷納税を積極的に働きかけながら、地域イベントを開催し公開することが考えられる。道守の皆さんが立ち上がり、その礎になることを期待したい。

一方、気候変動は、異常な災害を引き起こし、植生や農林水産業に変化をもたらし、生活環境に多大な影響を与えている。したがって、次の地平に向け、道守の仲間たちがこれらの情報を共有し、気候変動に即した植栽、災害に処する共助システムの構築と活用が望まれる。要するに、幼児期を脱し、青年期に向けた活動が次の新たな地平に向かう道守である。さあ、手を携え前進しよう。（道守九州会議代表世話人 樗木武）

## 道守大分会議

みちづくし大会は、今年で第11回目を迎えました。昨年長崎大会ではパブリックミーティングという新しい試みの中、10年の活動を振り返りました。大分大会では、長崎からのバトンを受け、道をステージとして「10年を迎えた私たち道守は何ができるのか」を志向する大会にしたいと考えています。

議論の中で

- ①さらなる道守活動の裾野を広げたい。
- ②道に関する活動を行っている未加入団体・個人の発掘をしたい。
- ③企業が道守活動の理解を深めて欲しい。
- ④この大会を単なるイベントに終わらせることなく、次の10年の活動の再スタートとしたい。

などをテーマに、今回の大会を企画いたしました。

この大会で次のステージへ、希望あるご提案ができることを期待しています。（道守大分会議事務局長 木ノ下結理）



## 新たな取り組みが

ちやくちやくと進行中

スポーツで街をきれいにする！

北九州市道路サポーターの会は道路美化のボランティア活動を行っている206団体・11,780人で構成されています。活動団体が多く、活動形態も多様化しているこの会は「区会」「幹事会」「総会」を設け、北九州市の支援や会のあり方を、各団体の皆さんと一緒に考え決めていく取組を行っています。また、道路美化活動での課題等について、活動団体間で身近なところの意見交換を行う機会にもなっています。

北九州市の7行政区ごとで行う「区会」は昨年度2回開催しました。「区会」で提案された意見は、区代表7名と行政で構成される「幹事会」で議論され、散水栓の増設や清掃用具が追加されることになりました。今後も自主的な活動を基本として会の輪を広げるとともに、持続可能なものになるよう盛り上げていきたいと考えています。

また、昨年度は「スポーツGOMI拾いin北九州」が開催され、北九州市道路サポーターの会からも16チームが参加しました。スポーツGOMI拾いとは、決められた時間内に、当日発表される決められたエリア内で、チーム対抗でゴミの量と質を競い合う、スポーツ史上最も地球にやさしく、社会貢献活動史上最もエキサイティングなスポーツです。この「スポーツGOMI拾い」は全国各地で行われていますので、皆様も機会があればぜひ参加してみてください。（道守ふくおか会議 世話人 北里幸良）

## 『新しいつながりで

輪をひろげよう』

道守巻物で更なる展開

『道と人との新しい縁を紡ぐ、一步を踏み出そう』として佐賀会議が発足し、さまざまなボランティア団体さんと手をつなぎ交流を深め、絆をつなぐようと、「佐賀大会」「PR」「花植え会」「道の見学会」「清掃活動」を実施して10年が経過しました。

現在、団体様の高齢化に伴う活動の停止や休止、新規団体さんの加入が見られないなど、継続や活性化などが課題になっています。

世話人会や総会では、勧誘はもちろんのこと、一般の方々が道についての認識や興味を持たれ、ひいては街づくりのきっかけになるようなPRをしよう、と、そのPRの第一段階として、『佐賀の道守巻物』作成に取り組みました。

『佐賀城下ひなまつり、おもてなし清掃』は、佐賀にお越しになる方が気持ちよく散策できるようにと発足当時より継続して実施しており、一般参加の方々やボランティアの団体さんが数多く参加されています。その時に、白布をキャンパスとして、道に対する思いや願いなど自由に書いて頂き、幅1m長さ10mの佐賀の道守巻物が出来あがりしました。参加者も記念になり、道守の歩みや足跡として残していけ、これをいろんな場所に掲示して更なるPRに繋げようとしています。

みちづくしin大分で「新たなステージ」として開催されますが、佐賀も新たなステージ『新しいつながりで輪をひろげよう』と、更なる展開を目指します。（道守佐賀会議事務局 中島三毅）

## 『地方創生』は道守活動から

「進化した新しい公」を

先ず、本日の「みちづくしin大分2014」に祝意を表し、九州七県の更なる連携強化を嬉しく思います。昨年は長崎で開催された「第十周年記念大会」にご参加頂きありがとうございました。私たちは道守活動の十年間を総括し、「新しい時代の公」を学び、「道守活動の原点」に戻ることを誓いました。先日、「がんばらんば長崎国体」に九十万人の選手、家族、観光客を県民一丸となって心からお迎えしました。おもてなし満開でした。また熊本県天草市を含む「長崎の教会群の世界遺産と軍艦島(端島)、造船等の日本の近代産業革命遺産群」の有力候補地として県民こそって世界に通じる環境美化に努力中です。長崎県内各地の道守活動の大きな目標であり、その先頭で活躍中であります。

道守活動の原点は、自分の町は自分でつくる「郷土愛」と「新たな自分自身を発見する『自己実現』への日々の挑戦であります。『進化した新しい公』は地域住民と行政との新たな連携であり、次世代へのさらなる絆であります。子ども、孫たちが自分たちが生まれた街にいつまでも住みたいと思う街づくりに、大人の責任を果たしたいと念じます。今、地方の時代到来、地方に住む誇りと地域創世の明確な目的意識をもって、日々の道守活動を仲間と一緒に楽しみたいと思います。

（道守長崎会議 NPO道守長崎副理事長 小浜温泉57代表 宮田隆）

## 人が環境をつくり、

環境が人を育てる

道守くまもと会議の一員である熊本市立帯山中学校では、平成17年度から緑化10カ年計画を立て、「種苗1万本大作戦」、「500mフラワーハンギングの設置」、「グリーンカーテンの設置」、「樹木表札500枚設置」、「道守花壇の整備・管理」など学校内外での緑化活動を推進してきました。

さらに、地域との連携では、校区の青少協と共催で「中学生地域交流推進事業（さわやか推進事業）」を毎年10月に実施。職場体験でお世話になった事業所等に花を植えたプランターを届けて、校区を花いっぱいにするという取り組みも行っており、樹木の剪定や除草作業も行い、ボランティアでおいでになった地域の方々と中学生との交流の場になっています。

緑化活動を通して生徒たちからは「花に水をやりすぎたら、枯れることが分かった。」「道守花壇の掃除をしていて、通る人に挨拶をすると、笑顔で挨拶を返してもらえる。」「朝の緑化活動のお陰で、先輩後輩が仲良くなり、共に協力し合えるようになったと感じた。」「緑化活動は、汗をかいいたり、手が汚れたりして、楽な作業ではないけれど、学校が植物に囲まれていると、良い気持ちで一日が送れる。環境を整えることは、とても大切だと思った。」などの声があがっています。

今後は道守花壇の範囲を広げて、帯山中学校の生徒をはじめとする若い世代の活躍の場を増やし、自然と人間は繋がっていることを実感してもらい、環境面でも社会に貢献できる人材を育てていきたいと考えています。（熊本市立帯山中学校 教頭 守田猛）

## 道守 次世代へのバトンタッチ

ネットワークの活用を

子どもの頃、大人になったらどんなに豊かな夢のある未来が来るのだろうと漫画雑誌を読んでワクワクした記憶はありませんか？ しかし現実には、西暦2004年に1億2784万人のピークを迎えた日本の人口は、2100年には最大で6407万人から3770万人、平均でも4771万人になるのではないかという調査結果が発表されているのです。その頃には高齢化率は40%を超えると言われています。今まで3人で1人の高齢者を支えていた時代から1.5人で1人の高齢者を支える時代がもうすぐそこまで来ています。

高度経済成長時代に日本国中で整備された道路も改善、改修の時期が来ており、今までの「道守活動」とは異なったアプローチが必要となってきます。現存するものをいかに結びつけ、上手く活用していくか？ 道守だけでなく、風景街道や道の駅等とのネットワークを活用しつつ、未来の子どもたちに如何にして郷土の風景や文化を残していくかが今後の活動の核となっていくような気がします。みやぎ会議では、清掃や植栽活動だけでなく次の世代にどうやって、そして誰にバトンを渡していけるのか？を見据えて活動を続けてまいります。

（道守みやぎ会議 事務局長 石田達也）

## 活動の輪広げる仕組みづくりへ

本年度は、第1ステージで作った基盤のうえに、その中で見えてきた課題や活動を幅広く展開する第2ステージに入りました。

道守かごしま会議は、これまでの10年間、道守会員の情報交換・研修等を開催し、人と人との繋がりを大切に道守の活動の輪を広げるための取組みをしてまいりました。昨今、協働という意識が進み、以前に比べ活動の環境が向上している中で、「新しい公共」の考え方による活動も手探りで進めてまいりました。しかしながら依然として様々な課題があり、また、新たな課題も生じていることがわかりました。このようなことから、次のステージでは、これまでの活動を振り返り、今後の課題についてワークショップを開催し、道守会員の声を聞くことで「進む方向」や「やりたいこと」を見つけ、次の新たな展開に結んでいきたいと思っています。

それは、道守のみならず、地域における様々な主体のネットワークと連携で具体的な課題解決のための実践であり、文化、景観などを一体的に考えて活動に取り組み、行政や県内の他の団体を巻き込んだワークショップ開催し、広範な活動を展開していこうと思っています。

活動の輪を広げるのに欠かせないことは、多くの人々が関わる事のできる仕組み作りが大事です。今、道守かごしま会議はプラスのスパイラルが回り始めました。ぜひこの勢いを新たなステージにつなげ、新たな道守活動の原動力に発展していくことを願っています。

（道守かごしま会議 代表世話人 田島直美）



## 1. はじめに

このところ、風景街道関連の幾つかの会合に出席する中で、道守、風景街道、道の駅の連携が多く取り上げられるようになっていきます。私自身は風景街道ルートの日南きらめきラインを活動の拠点としてきたこともあり、風景街道活動の立場から道守・道の駅との連携を意識してきたところですが、道守・道の駅も同様のようです。道守活動も道の駅も長い歴史があり、大きな実績を上げてきたことは明らかです。一方、風景街道活動はまだ歴史は浅く、各々のルートで模索しながら活動を行っている状況だと思います。三者の連携は各々にとってどのような意味を持つのでしょうか？

## 2. それぞれの課題と三者連携の方向性

ここで道守、道の駅、風景街道が抱える課題に少し触れておきたいと思います。道守活動については、活動資金減少のほか、後継者不足の問題が大きいようです。道の駅は売上確保が最大の課題でしょうが、一方で地域での公共性をいかに確保するかについて議論が必要です。風景街道活動についてはルートごとに目的が異なるため

# 道守活動と風景街道・道の駅との連携について

吉武哲信（九州工業大学 教授）

一概には言えませんが、資金・人材不足、知名度の低さから来る活動展開の制約は共通しているようです。

もちろん、各団体はそれぞれの課題解決に取り組んではいます。しかし、道守、道の駅、風景街道はせっかく道に関わる活動をしているのですから、連携することで課題の改善とともに、地域に一層の活力を生み出すことができるのであれば、それに越したことはありません。現実的には連携への障壁もあるようですが、一方で実は道守・道の駅・風景街道の活動者が重複し、実質的連携がなされているところもあるでしょう。

三者が連携するには、「連携」の目的とそれが各々の課題解決に結びつくことを明確に意識できることが大切です。まず、大きな目的を共有し活動の方向性を合わせること、次に、それぞれの目的や課題解決にいかにつながる

かを具体的に認識し、「連携」の必要性を見出すことが重要かと思っています。

## 3. 日南きらめきラインでの連携

日本風景街道「日南きらめきライン」は、ルート内に三つの道の駅があり、すべてがルート構成団体となっています。また構成団体のうち約半数は道守さんでもあります。したがって風景街道活動が自然と道守・道の駅との連携の上になされているともいえますが、ここでは特に二つの連携活動について紹介したいと思います。

### ●ジャカラダのまちづくり

宮崎県日南市南郷町には昭和三九年にブラジル県人会により持ち帰られた種子を出発点として多くのジャカラダが植栽されています。このジャカラダを沿道や民有地に植栽し、「ラベン

組んでいます。風景街道活動とすることで、各種行政機関との調整・連携がしやすくなり、また植栽や維持管理において道守さんも含め幅広い市民の参加を得られやすくなっています。この結果、市内のジャカラダは順調に増え、開花シーズンには関東地方も含め遠方から多くの観光客が楽しまれている

ます。これは道守さんのやりがい、風景街道の地域づくり活動の発展、さらには道の駅も含め地域での観光収入のアップにつながっていることだと思います。ただしここで注目しておきたいことは、道の駅が単に「道の駅の利益」だけを追求したのではなく、南郷のまち全体、更には、日南市全体の活性化を目的としたことにより、多くの市民や行政の賛同を得られたことです。道の駅が地域全体の活性化プロジェクトのリーダー役を担っていると言えるでしょう。

### ●花の苗供給システムと多様な植栽活動

宮崎県では、昭和44年に全国で初めて沿道修景美化条例が定められ、以来、四季を通じて鮮やかな花が沿道を飾ってきました。特に宮崎市から串間市に至る日南きらめきラインのエリアは美しい海岸と相まって宮崎の印象的な風景を提供し続けています。この風景形成の財政的基盤は行政と宮崎交通によるところが大きかったのですが、近年では大きく縮小しています。これをカバーするため道守さんはこれまでも花植活動を行ってきましたが、日南海岸きらめきラインでは一層のコスト削減のため、花の苗を種から育てエリアに供給するシステムを構築し、その上で

ここでは、「美しい風景が県民の財産である」という共通の認識と「美しい風景でもてなしたい」という共通の思いが自然に連携を生んでいます。

## 4. 多様な連携に向けて

日南海岸きらめきラインは平成二二年度より日本風景街道大学を開催してきましたが、昨年度にはSNS等で地域活動や道の駅のイベント情報、観光情報を連携して発信することが提起さ



花の苗供給システム



ジャカラダ植栽イベント

れ、動き出したところです。また本年度は、道の駅との一層の連携をテーマとして議論する予定です。

そこでは、近年流行している自転車のポタリングをはじめとした地元ガイドツアーや地域ボランティア活動の集合拠点を道の駅とすることや、地域イベントと道の駅の催事の合同実施、さらには、他地方の風景街道ルートの特産品を相互販売する催事を道の駅で行うなど、多様な連携の案や事例が紹介・議論されることになるでしょう。

今後は九州内のみならず全国的にも様々な試みや実績が増えていくと思います。その情報を共有しながら、それぞれの団体で必要かつ可能なことをまずは実践し、そこから連携システムの構築ができるとうよいと考えています。

### ●プロフィール

吉武哲信（よしたけつづのぶ）  
九州工業大学大学院工学研究院  
建設社会工学研究系教授  
地域・都市計画、コミュニティ計画、交通計画の分野で研究を行っている。学術研究と連動した社会での活動も重視しており、日本風景街道の活動のほか、まちづくりに関連する各種計画策定、農山村コミュニティの活性化活動等を実践している。



ぐるっと青島プランターづくり







NPO法人岡原花咲かそう会



大分国際情報高等学校



菅生小学校

道守活動が結成されて10年——  
『みちづくし in 大分2014』を開催するにあたり、私たちは次のステージに進むための「道守プロモーション」を実践してみました。

次に、県内の企業にも訪問。私たちの活動内容をお伝えし、がんばる県内の団体を応援していただく。

「道守プロモーション」を実施したことで、新しい活動団体にも出会え、企業にも道守を宣伝することができました。待っているだけでなく、連携することで次のステージを創造することができました。道守の次のステージに一步一步進んでいきたいと思っています。  
(道守大分会議事務局長 木ノ下結理)

## 大分 地域からの報告 道守大分会議

### 自治体、企業を巻き込んだ 「道守」次のステージへの可能性

# 私たちの 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

高齢化、資金調達など、10年を迎えた道守には維持していくための課題がたくさんあるかと思えます。

『みちづくし in 大分2014』を開催するにあたり、私たちは次のステージに進むための「道守プロモーション」を実践してみました。

次に、県内の企業にも訪問。私たちの活動内容をお伝えし、がんばる県内の団体を応援していただく。



みちづくし in 大分2014実行委員会

くために協賛を依頼しました。

高齢化の波は避けては通れない問題ですが、新しい団体に加盟していただくことで、活性化する試みを実践できました。

資金調達は、行政の補助金頼りだけではなく、地元企業にも応援していただくことで、お金や物資の支給にも繋がりました。何より応援していただくことは、私たちの活動の励みにもなります。

「道守プロモーション」を実施したことで、新しい活動団体にも出会え、企業にも道守を宣伝することができました。待っているだけでなく、連携することで次のステージを創造することができました。

道守の次のステージに一步一步進んでいきたいと思っています。  
(道守大分会議事務局長 木ノ下結理)



（株）地域科学研究所では、道守活動として毎月1回（第2水曜日の朝8時から15分間）会社周辺の道の清掃活動（ゴミ拾い）をしています。参加人数は毎回10〜15名程度です。当社の立地する東春日町周辺は、舗装された道路や地区の公園がある住宅地の一角で、いつもきれいに保たれています。その中でも多いゴミは、煙草の吸殻です。道守活動は、社員同士のコミュニケーションの場だったり、モチベーションアップにつながっているように感じます。また1月の道守活動は、「新春道守」と称して、近くの春日神社へ集合し年始の参拝をし、その帰り道の道路のゴミを拾って帰るのが恒例行事になっています。この1月の道守活動は通常より参加人数が多く、新年から清々しい気持ちになりました。さらに現在は、来年オープン予定の大分県立美術館が近くに建設中です。来年の開館から周辺の人通りや車の流れも変わってくると思いますので、今後もきれいな道路を維持できるように道守活動を続けていきたいと思っています。いつもはパソコンに向かって行う仕事が多いのですが、道守のような野外活動はとってもいい気分転換にもなっています。  
(堺絵理)

## 地域科学研究所

### コミュニケーションの場にも

## 大分



カルタ館付近の南京ハゼの紅葉  
(大牟田市提供)



ノースポールの咲く国道208号



大牟田の近代化産業遺産、  
三池炭鉱関連施設を世界遺産へ

# わたしの好きな道

## 道に四季の移ろいを ～福岡県・大牟田花街道～

道守九州会議設立趣旨に謳ってある「日本の原風景」。団塊世代の私は、それを読むたびに懐かしい思いにかられます。私たちが子供の頃、秋の沿道にはススキの穂がなびき、コスモスが自生して、道行く人々を楽しませてくれたものです。それが、いつの間にかセイタカアワダチソウが生い茂り、瞬く間に日本の秋の風景が壊され心を痛めていました。

数年前に台湾を訪れた際に、銀色のススキ一面の河川敷の素晴らしき！目に焼きついて忘れることができました。日本の秋を取り戻したいと思ったのです。また、海外に行くたびに、自分の街でも綺麗に整備されたお花いっぱい沿道にしたいとの思いを持ち続けていました。

そうした時に、昨年、道守おおむたネットワークが発足し、「大牟田花街道プロジェクト」として大牟田市の中心、国道208号の約1.2kmにわたってノースポールの花の苗を植えました。有志が種から育てた苗3,800株は、春には見事に咲き誇り素敵な道になりました。私の夢が実現しつつあります。

私の好きな道は、秋にパンパスグラスが大きな白い穂を咲かせる鳥栖く久留米間の高速道路、アザミや菜の花が咲き乱れる矢部川の堤防沿い、本田技研通りの桜並木など沢山あり、日本の四季を楽しませてもらっています。有明海や沿岸の田園風景を一望できる有明海沿岸道路も利便性のみならず通るのが楽しい道です。

しかし、何といても一番好きな道は、地元の大牟田警察署から市立体育館に通じる「南京ハゼ通り」です。丸く剪定された夕日に映える紅葉は見事です。大牟田が誇れる並木道に是非出かけください！

今年も11月に「花街道プロジェクト」として、各公民館の老人会や子供会を中心にお花を植えます。どんな道ができるのか、今からワクワクしています。

通る人を和ませ楽しませてくれる道、気持ちのいい道には人の善意がいっぱい詰まっているようで、いつも「ありがたいな」と思って通らせてもらっています。

### プロフィール

#### 三原くみこ（みはら・くみこ）

道守おおむたネットワーク世話人。ステージ1ドレミ代表。公民館環境部長としてのVSP活動やライオンズクラブ元会長としての町的美緑化活動に取り組んでいる。





福岡



長崎街道筑前黒崎曲里の松並木を愛する会

曲里の松並木で結婚式を



長崎街道筑前黒崎曲里の松並木を愛する会は、「1. 地域をキレイに保つ意識を高めたい2. 歴史を知ることにより郷土愛を育てたい」と平成元年から活動を開始しました。会員数は約20名で長崎街道の一部である曲里の松並木（約600m）を月に1回清掃しています。清掃の他にも「子供たちの心に郷土愛を育てたい」という想いから年末に地元の小学校を巻き込み清掃活動を行ったり、10月には「曲里の松並木あかり祭り」を開催し、地元の小学校、高校、企業がそれぞれペットボトルを集めてキャンドル・アートを作っています。また、昨年にはこの松並木で初めて結婚式を行いました。これからも曲里の松並木を、皆に親しんでもらえるように清掃活動や賑わいづくりに取り組んでいます。思っています。

（会長 森永武幸）

佐賀



イオン九州(株)イオン唐津店

毎月11日イオンデーの清掃活動



イオンでは毎月11日を「イオンデー」としてお客さまとともに環境保全活動や社会貢献活動を行っております。このイオンデーには、店舗従業員が店舗周辺の清掃活動を行っております。この活動は1991年4月29日の「みどりの日」から「クリーン・アンド・グリーン」活動としてスタートし、現在では毎月11日をイオンデーとして全国のイオン店舗及び本社にて継続して清掃活動を行っております。イオン唐津店においては1999年の店舗開店時から行っており、イオン直営従業員、テナント従業員あわせて約80名が清掃活動を行っております。また、年1回地域のお客さまやボランティア団体様などにもご参加いただき拡大クリーンデーとして約180名規模で実施しております。イオンの活動に賛同していただける多くのお客さまにご参加いただき、熱心に清掃活動を行っていただいております。これからもイオンは地域の一員として積極的に活動を行ってまいります。

（店長 山口洋二）

長崎



ロード・スターズ

地域への奉仕と  
明るく豊かな社会づくり



私たちは道路建設に関わる企業の社員です。「長崎の道をより美しく」「地域への奉仕の精神」で、社員50人を中心にボランティア・グループ「ロード・スターズ」を平成16年3月に結成しました。「ボランティア長崎」に参加し、長崎市役所から諏訪神社下までの歩道及び植栽帯の清掃活動を行っています。一致団結して頑張り、はや11年目の活動となりました。毎年10月7日・8日・9日に長崎の大祭お宮日が開催されますので、9月の中旬に、神社下の歩道部の植栽帯に、花苗の植栽活動を、6年程前から行っており、今年も9月13日に実施しました。10月いっぱいには、水やりを行います。花壇が美しくなったと地域住民の方から、大変喜ばれています。これから先も、より美しく・住みよく・明るい長崎の道づくりに、取組んでいきたいと思っております。

（事務局 福田伸浩）

熊本



道の駅宇土マリーナ

おもいやりの連鎖を育む活動を



道の駅宇土マリーナは、熊本県のほぼ中央に位置し、九州有数の観光ルート国道57号線沿いにあります。日本渚百選「御興来海岸」に隣接した雲仙普賢岳を眺望できる風光明媚なところに位置し、絶好の休憩スポットとなっており、日々多くのお客様にご利用いただいています。そこで利用していただく方にさらに気持ちよく過ごしていただくため、平成19年から道守活動に参加しはじめました。毎年8月の道路ふれあい月間の県下一斉清掃への参加、そして道守花壇の運営を続けています。今年は8月6日に一斉清掃を行い、72名の参加者で暑い中汗をながしながらも和気あいあいと作業に励みました。気持ちよく利用できる場所は心に余裕をもたらします。美しくなった道の駅でドライバーの方がほっと一息ついてまた安全運転につとめる…そんなおもいやりの連鎖が繋がっていくようお願いしながら今後も活動を続けていきたいと思っています。

（道守くまもと会議事務局 村上）

宮崎



北郷町史談会

「歩き・見て・ふれあう」飢肥街道



北郷町史談会は平成3年9月18日に会員34名で発足し、私が2代目の会長を引き継ぎ今日に至っております。文化庁指定の飢肥街道は、倉元作次・前会長時代に北郷町教育委員会の職員と協力して草木を切り払い、資料を基に江戸時代の街道の姿に整備いたしました。以来、毎年春と秋に史談会が除草・清掃を行い、教育委員会が定員40名を募って「歩き・見て・ふれあう」をモットーに歩こう会を実施しています。この飢肥街道は、天正・慶長年間（1600年前後）に開通したもので、現在も沿道には歴史を伝える名所が数々存在します。戦国時代に薩摩の盗賊に殺害された僧侶・壹岐幸有の供養塔、伊藤マンショの弟・勝左衛門子孫の邸宅、郷之原城跡、内之田処刑場跡等々。春には樹齢約150年の山桜30本や花立公園の1万本桜も楽しめます。これらの史跡を初めての方にもわかりやすく、安全に巡っていただけるよう30本の案内板を設置・維持管理しています。

（会長 本山隆義）

鹿児島



いきいき坂美会

幅広い層が和気あいあいと



私達の住んでいる所は高校、中学校、小学校、幼稚園、大きな墓地等のある住宅地です。20年ほど前、知人に「坂元はきたない」と言われたのをきっかけに清掃活動を始め、現在「いきいき坂美会」は坂元台校区成人学級の傘下であり「美しい街・住みやすい街・安全な街」を目標にボランティア活動を行っております。若い人から年配の人まで幅広い年齢層です。5月30日のゴ(5)ミ(3)ゼロ(0)の語呂合わせにちなんで、毎月30日（2月は28日、12月は26日）午前8時30分より清掃活動を定めています。道路歩道のゴミ拾い、草取り、草刈り、降灰の除去や花壇の植え込み等の手入れなどを行い、和気あいあいとした雰囲気の中で会員みんなが楽しみながら頑張っております。最近では「おせんち会」（高齢者）の小学生も参加する等、本会が徐々に認知されており、今後更に「住んでいる町をきれいにしよう！」を目指して美化活動が広まっていくよう努めてまいります。

会員だけでなく、周辺住民も参加し同様の活動がほかの地域にも広がることを期待しています。

（代表 増田隆夫）



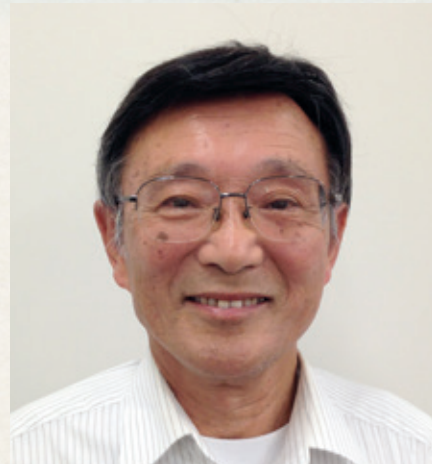
# 九州風景街道マイスター

九州風景街道づくり活動の先導役を担っていただくため、九州風景街道推進委員会は6人の「九州風景街道マイスター」を選任した。いずれの方も風景街道発足以来、運動の先頭に立ち、指導的役割を果たしてこられた。発足から5年、風景街道の前進のため、講師役やイベント開催などで様々なアドバイスをいただくことになっている。



**堀 幸子 さん**

(「中九州横断道路」の早期完成を願う  
女性の会 会長)



**籠手田恵男 氏**

(平戸観光ウエルカムガイド理事長)



**橋本正恵 さん**

(NPO法人蒲江ブルーツーリズム  
研究会代表)



**和田 浩 氏**

(日南きらめきライン・元代表世話人)



**桑野和泉 さん**

(湯布院・玉の湯代表取締役社長)



**樗木 武 氏**

(九州大学名誉教授)

大分県竹田市で女性の目から見た「道路整備」の在り方について積極的に発言すると共に広く全国の道について考える女性たちの育成、指導に当たっている。道守活動などで菅生小学校の児童と共に沿道の清掃活動を積極的に進め、街づくり、人づくり活動を展開。  
また、竹田市のメイン観光地である岡城址への観光客が年々減少してきた中、竹田に好印象をもっていたために、沿線に彼岸花の花植え活動も行っている。

長崎県・平戸観光の推進役。JTBでの経験を平戸観光に生かし、風景街道での多彩な活動を展開している。特に、ボランティアガイドの育成に努め、自らの街案内を買って出ている。平戸観光協会の理事を務め、平戸の新しい魅力発見、穴場の紹介なども。福岡都市圏からの平戸直行バス運行などによって、誘客に努め、平戸観光の満足度向上に努めている。

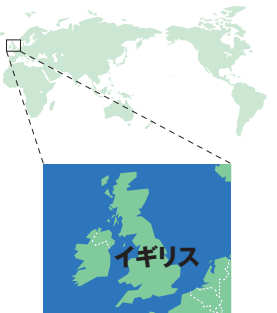
大分県・東南端の漁村、蒲江の美しい海とそこに生きる「海暮らし(海業)」を資源として風景街道を立ち上げ、「東九州伊勢えび海道」事業など元気いっぱい活動が続いている。大漁旗を身にまとい、パワフルな情報発信、独特の感性から生み出されたアイデアなどで注目を集めている。福岡都市圏でのバス全面に描いた「伊勢えび」広告などで「蒲江」の知名度を上げ、「あまべ渡世大学」の開催など地域の後継者の指導・育成に取り組んでいる。近く開通する東九州道と結んだ誘客事業など多彩な活動を展開しようとしている。

宮崎県日南市の旅館経営者。宮崎バスの岩切章太郎氏提唱の「大地に絵を描く」の理念のもとに南国情緒あふれる日南海岸道路の花いっぱい運動はじめ地域活動を推進、「日南きらめきライン」の創設期に指導的役割を果たしてきた。宮崎バス主導から民間・住民・行政の協働による風景街道運動に発展させ、観光宮崎の担い手の一人。長らく途絶えていた「鶴戸さん(鶴戸神社)参り」を復活させ、「シャンシャン馬道中唄」の審査委員長を務め、その指導、普及、後継者育成に取り組んでいる。

大分県観光協会会長。全国的に有名になった大分県・湯布院の地域づくり、新しい形の温泉地づくりに尽力されている。九州風景街道の可能性を探るシンポジウムなどで積極的な提言を行ってきた。湯布院では「湯の坪デザイン会議」など町おこし市民団体と協働で新しい地域づくり運動を主導すると共に、外部有識者の意見を積極的に取り入れ、湯布院を「全国区」に育て上げた。新しい観光地の在り方、地域情報の発信や、街づくりブランディング技術など誰もが認める「地域づくり」リーダー。

道守九州会議代表世話人。社会資本の整備にあたって、様々な専門的、技術的な助言をされてきた。風景街道の先駆けとなる平成16年9月のシンポジウム「観光振興と道路」のパネル討論のコーディネーターを務め、道路と市民を繋ぐ運動を指導された。特に、玄界灘風景街道で、都市型風景街道の思想を打ち出し、散策に値する都市街路のあり方を追究、都市文化と歴史文化の融合などを提唱している。特に、福岡市の天神と博多駅を結び、豊かな「シティ」形成のため「20の提言」をまとめるなど先駆的な役割を果たしてこられた。





### 路肩を賢く使って渋滞解消！

お盆の高速道路の渋滞、イライラしますよね。路肩も走ればいいのに、そんなことを考えた方はたくさんいらっしゃると思います。そんな思いをすでに実現しているのが、イギリスの高速道路。混雑しているときは、路肩も走れるんです。イギリスの高速道路も、日本と同じよ

うに朝や夕方に渋滞が慢性化しています。この渋滞への対策として、「車線を拡幅」するのではなく「路肩を走行車線として渋滞時に一時利用」する方策をイギリスは選びました。その理由は、①全日ではなく「ピーク時間帯」のキャパシティの増加が必要、②単純な拡幅では利用者も増加してしまうため効果は限定的、③特に都市部では、車線拡幅のためのスペースがない、④車線拡幅は、地域住民や環境保護のために数年間事業が休止する可能性としています。

ルダグ」と呼び、2009年から導入しています（写真1）。ただし、この路肩走行は、単に路肩を開放するだけではありません。約800m毎に情報板や速度制限表示板を装備したガントリーを設置し、その他の走行車線も含めた混雑時の走行速度を総合的に制御するとともに、安全対策として、約800m毎に非常駐車帯や非常電話も設置しています。更に、事故などの緊急時には、本来の路肩としての機能を発揮させるため、情報板等を用いて一般車両が路肩を走行することを禁止し、事故車両の停車スペースや、緊急サービス車両のアクセスルートの確保も行います（写真2）。路肩走行は、イギリス以外のヨーロッパ諸国でも導入されています。最も進んでいるのはドイツ。既に約210km（2012年3月現在）で導入済みで、今後追加で350kmの導入が計画されています。

更に、イギリスでは、ダイナミック・ハードショルダーの進化形である、オール・レーン・ランニングを今年から導入しています（写真3）。この方式は、これまでのように混雑時に限って路肩を開放するのではなく、逆に、平常時は常に路



写真1 ダイナミック・ハードショルダー



写真2 事故発生時は路肩走行禁止

更に、イギリスでは、ダイナミック・ハードショルダーの進化形である、オール・レーン・ランニングを今年から導入しています（写真3）。この方式は、これまでのように混雑時に限って路肩を開放するのではなく、逆に、平常時は常に路



写真3 オール・レーン・ランニング

肩を走行車線として一般車両に開放し、事故発生時に限って路肩を緊急車両用に一般車両を通行禁止にする方式です。これによって、路肩をコントロールする機会を減少させ、シンプルな運用が出来るため、多くの施設を簡素化し、大幅なコスト削減が可能となりました。



プロフィール  
水野 宏治

国土交通省福岡国道事務所  
長。2011年11月から2013  
年1月英国道路局へ派遣。  
2013年4月より現職。

## 道守 人物伝

『できる人が、できる時に、  
できる事をしよう！』

花畑で30年の絆

道守佐賀会議 副会長  
牧瀬杏子会長  
福山貞子さん



昭和63年、国道203号線の厳木町牧瀬にバイパスが完成して、歩道橋が出来、その下の空き地には多量のゴミが不法に投棄されました。当時の婦人会長「牧瀬杏子」の福山さんの声かけでゴミを片付け、その土地を建設省から借地し、「年中花を咲かせる」との約束で地元企業のご協力により花畑が作られました。

以来、花畑を「牧瀬杏子」が引き継いで年2回の花植えや毎月の手入れ、除草などを実施し、平成15年には、国・厳木町（現在は唐津市）との3者で「ボランティアサポータープログラム」を締結して、現在でも活発な活動が継続されています。

また、道守佐賀会議に参加し、交流会や体験事業・PR活動などを通じて他の団体様や他県の方とも交流が図られています。



「杏子の合言葉『できる人が、できる時に、できる事をしよう！』として、それぞれに集まったの活動であり、リーダーとしていろんな苦労もありましたが、30年間毎月できる人ができる時に集まり、皆さんの笑顔がそううこととこの深い絆に感謝しています」とのことです。

## 道守たちのトピックス 〈横顔〉

### 大脇道路調査官



大脇鉄也調査官は、平成26年4月より就任。前職の宮崎河川国道事務所所長のときは、道守みやざき会議の皆さんと供に道守活動に参加いただいた。道路における自転車交通の扱いについて常に問題意識を持ち、研究職の時には数多くの研究報告も行っている。「今後も道守の皆さんとともに、あらゆる道路利用者にとって快適な道を追い求めて参りたい」と話している。

### 佐々木地域道路調整官



佐々木英明地域道路調整官は、平成25年4月より現職に就任。前職の交通対策課長の時、「道の駅」を担当。「道を舞台とした活動は「道の駅」「道守」「日本風景街道」も目指す方向は同じ。美しい風景・自然・歴史など地域ならではの資源を活かして、地域の活性化に取り組む「日本風景街道」との連携はとても重要。これからも関係する皆さんと一緒に、より一層の連携を進めて行きたい」と話している。

### 白田道路管理課長



白田雅彦道路管理課長は、平成26年4月より福岡国道事務所副所長から現職に就任。これまで、バイパス等の道路整備に長く携わって来た。久々の道路管理業務に緊張の中「10年を越える道守の歴史を大切にし、さらなる発展に向け、道守活動を盛り上げて行きたい」と話している。

## 道守通信 編集後記

○第11回のみちづくし交流会は11月21日と22日に大分市で開催され、テーマは「道守・新たな地平をめざして」です。1部2部の構成になっています。第1部は、今回のテーマ「道守・新たな地平をめざして」について、「道守九州会議」発足の仕掛け人で育ての親である岡本博さん、大所高所から支援していただいている宮田年耕さん、道守代表の堀幸子さんに登壇いただき対談していただきます。コーディネーターは副代表の塚原健一さんです。第2部は、各県会議の活動報告や大分県内道守活動審査会の結果発表など、大分では新しい道守さんも登場とか、とても楽しみです。翌日現地体験学習会は、新しく魅力的になった大分駅周辺の散策と歴史に触れる官兵衛ツアーをお楽しみ下さい。

○「日本一のおんせん県おいた」で開催されるみちづくし。この機会を活用して是非、別府・湯布院・日田の温泉巡り、耶馬溪・臼杵・竹田の紅葉狩り、観光地を巡る日帰りバスツアーなど身も心も大分を堪能していかれませんか。

○九州風景街マイスターに道守九州会議のメンバーが6名中4名。そのうちの3名が道守大分会議の主要メンバー。まさにこれからの道守活動のあり方をリードする方達です。道に関わる活動の中で道守活動以外では「道の駅」や「風景街道」などがあります。今回、対談で登場される宮田さんは10周年記念号で「道の駅」と「風景街道」との連携について発言されています。宮崎での実践活動を九州工業大学の吉武哲信教授に紹介いただきました。道守活動のさらなる発展を期待したいと願っています。○道守活動に様々な支援をいただこうになりました。補助金ばかりではなく、ビブスやタオルなど活動する上では必需品の提供です。快く応じていただいている企業や団体には心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

○最近、各地で駅伝やマラソン大会が開催されるようになりました。ランナーへの応援はもちろんですが、街並みや道にも目が行きます。地域の皆さんで清掃や花植え沿道をきれいに心地良くしていただいていることを思いながら見えています。選手たちも沿道の声援だけでなく、走りやすい環境に安心して走っていることでしょう。これからも道守の皆さんの熱心な活動にエールを送ってきたいと思います。





発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」秋号  
平成26年11月●日発行

## 「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号  
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■（一社）九州建設技術管理協会内  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail [michimori@qsr.mlit.go.jp](mailto:michimori@qsr.mlit.go.jp)